

## 当院における DPP-4 阻害薬 シタグリプチンの使用経験から

かき ぼ とし あき      なが さわ あつ し      やま もと く み  
垣 羽 寿 昭      永 澤 篤 司      山 本 公 美  
よし おか                      さ      とう とし あき  
吉 岡 かおり      佐 藤 利 昭

キーワード：糖尿病，DPP-4 阻害薬，シタグリプチン

### 要 旨

【目的】外来 2 型糖尿病患者 (A)，摂食量不安定な入院 2 型糖尿病患者 (B) におけるシタグリプチン (Sita) 投与の効果を検討。【対象と方法】A：33名 (年齢 71±10歳，男15名/女18名，罹患期間 12±8年)。Sita 投与後の体重，HbA1c の推移に加え，HbA1c 1.0%以上の低下が得られた者を有効群，それ以外を無効群として，患者背景に差が見られるかどうかを検討。B：10名 (年齢 76±9歳，男6名/女4名)。インスリン療法から Sita への切替え前後の各 1 週間程度における血糖日内変動を比較。【結果】A：有効群17名，無効群16名で年齢，BMI，罹病期間，血中 CPR に有意差を認めなかった。B：血糖日内変動は切替え前 (7時 125±26/11時 191±55/17時 151±60/21時 186±59) から切替え後 (7時 120±29/11時 176±45/17時 165±45/21時 175±42) と悪化を認めなかった。【結論】A：Sita 有効例を予め選別し得る臨床指標は見出せなかった。B：摂食不良例における血糖管理に Sita は有用と思われる。

### はじめに

DPP-4 (dipeptidyl peptidase-4) 阻害薬は，内因性 GLP-1 (glucagon-like peptide-1) および GIP (glucose-dependent insulintropic polypeptide) の分解酵素 DPP-4 による不活性化を阻害し，これらインクレチンホルモンの血中濃度を

上昇させることで，血糖依存的にインスリン分泌を促進，グルカゴン過剰分泌を抑制して血糖コントロールを改善する。また，血糖依存的にインスリン分泌を促進するため低血糖が生じにくい，体重増加が起こりにくいという利点もある。

DPP-4 阻害薬シタグリプチンは，日本において2009年12月に上市，そして長期投与が可能となり，処方機会が増しているが，著効例，無効例双方を経験することもあり，経口血糖降下薬におけるポジショニングは明確になっていない。

Toshiaki KAKIBA et al.

松江赤十字病院糖尿病・内分泌内科

連絡先：〒690-8506 松江市母衣町 200